

晨風（2025 夏号）別冊

# きみの可能性は無限大

～保護者から子どもたちへのメッセージ～

## ☆M・I 「私の職業観」

学生時代の私は、英語が得意で人間の行動や化学に興味があったため、外国語、人間科学、化学科志望だった。しかし、数学の成績、家庭の経済事情でこれらへの進学を断念し、地元大学の法学部に進学した。では、何を基準にして学部・職業を選ぶと良いだろうか？

まずは「性格適性」。じっくり派／てきぱき派など。仕事では両極が必要だが、人事部、企画開発部、営業部など、職種・部署によって、求められる比重も若干異なる。

次に「能力」。言語、数理、思考、記憶、分析、判断、推理…。経済学部なら数学知識が、不可欠。進路決定には先入観なしの慎重な調査が必要だ。適性と能力について、林修先生が「他人には難しいことで、自分には易しいことなら（初めは好きでなくても）仕事にして良いのでは？」という面白い捉え方をしている。

3番目に「興味・関心」。私は高校時代、数学が苦手だったが、嫌いではなく「いつか克服して好きになる」と数学書をずっと読み続け、その美しさ、奥深さに感動してきた。「好き」は学びの一番の推進力だ。

昨年、私のマンションの修繕工事準備委員長を渋々引き受けたが、建築施工に関する本を読む内にどっぷり嵌まり、かなり詳しくなり「一

級建築士」「マンション管理士」に憧れが芽生えた。若い内は、あらゆる可能性を視野に入れて、学科や仕事を調べると良い。

4番目に「業界・職業の盛衰を見極める」ということだ。AI技術の進展によって、自動運転、生成AIの開発が活発化し、将来、仕事の一部が消滅する可能性がある。量子コンピューター、新素材、新薬、遺伝子工学の応用、など従来の概念を一変させる技術は枚挙に暇がないほどで、時代変遷スピードは過去20年の比ではないだろう。

その昔、人気企業と言えば「銀行・証券」「テレビ・新聞」「旅行・鉄道」「自動車・製鉄」だったが、今では斜陽産業も多い。高校生の皆さんのが働き盛りの30年後の安定経営企業は果たして？一寸先は闇。進学・就職しても安泰と思わず、常に将来の変化に神経質でいてほしい。一生打ち込める仕事が見つかればそれが一番。しかし、先の見通しが難しい昨今、日本にも「社会人の学び直し、能力の拡充・軌道修正」ができる制度構築を望みたい。社会に出て初めて自分の適性・能力・関心を自覚できる人も多いからだ。

商売人だった母は、公認会計士と交流があり（理由は詳しく話さず）私にそういう職業を勧めたが、仕事の具体的イメージも湧かず、気にも留めなかった。しかし今思えば、書面を相手

に個人で自由に活動でき高収入で魅力的な職業だ。子どもの性格を見抜いていたのか？

兄は「数学が苦手だから化学科は向かない。就職に潰しがきく法律か経済に行け」と助言。結局、最後まで法律に打ち込むことなく、あっさりと教育系の企業に就職した。他人の意見を鵜呑みにするのも良くない。無目的な学生生活は取り返しがつかない。

どこに進んでも「(今ある)課題解決力」だけでなく「(見えてない)課題発見力」が求められる。100円ショップの売れ筋商品に「味噌パックのフタ」がある。従来、味噌を使うたびにフタを開け閉めしていたが、100均のフタは被せっぱなしで前半分だけを片手でパカッと上げれば味噌が掬える優れもの。「日常に潜む、誰も気づかない小さな困りごと」に着眼できる人が、成熟した社会では有用な人材として重宝されるだろう。(終)



### ☆Y・K

私は看護師です。現在は特別養護老人ホームでパートタイマーとして働いています。

主な仕事は入居者の健康管理です。具体的には、バイタルチェック、服薬管理、医療処置、医師への連絡や相談、入居者の状態変化の観察、緊急時の対応など。介護士への指導もあります。また、他部署との連携も重要です。普段の業務の中でも報告、連絡、相談を密にし、職種にとらわれることなくコミュニケーションを大切にしています。

私が今の職場で大変だと思うことは判断です。医師が常駐していないので医療的な判断は看護師の責任です。高齢者はいつ体調が急変してもおかしくないので些細なことが命に係わることもあります。ただ、私は一人ではないので、悩むときは同僚に相談し決めることができるので心強いです。

日々の業務の中で楽しいと思うことは入居者との会話です。昔の話を聞かせてもらったり、日々の何気ない会話でお互いが笑顔になれる。そんな些細な日常が送れることがとても幸せだと感じます。実は私は、人見知りで周りとのコミュニケーションも苦手で情報収集ができず苦労していました。今でもコミュニケーションが苦手だと感じる場面も多いので、入居者との会話を楽しめていることは驚きでもあります。

看護師というと病院やクリニックで働いている姿を想像されることが多いと思います。でも、看護師の資格を生かすことができる職場はたくさんあります。きついこと大変なことが多い仕事ですが、資格をとったあとも学ぶことが多くとてもやりがいのある楽しい仕事だと思います。

☆M・H

小中高とバレーボール一筋だった私は、勉強の習慣がなく、部活引退後によく受験勉強を始めました。しかし、勉強を始めるには遅すぎたようで、志望校には合格できませんでした。

家庭の事情から浪人も選べず、進路に悩んでいた時、ちょうど注目され始めていた「IT分野」に興味を持ちました。「パソコンが使えたからいいかも」——そんな軽い気持ちも。

今でこそパソコンやインターネットは当たり前の中ですが、当時は文書作成にはワープロ。Windowsは3.1と95の狭間でデータ保存はフロッピーという時代。AI等、今の進化を思うと隔世の感があります。

インターネットが一般的ではなかったため、情報を自分で集めるのは難しく、豊富な情報をお持ちの進路指導の先生に相談しました。親身になってくださった先生の後押しもあり、IT系の専門学校に進学を決めました。

専門学校は授業がぎっしり詰まっていて、学びは想像以上にハード。でも、新しい分野を学ぶのは楽しく、アルバイトと両立しながら充実した学生生活を送りました。

卒業後は北海道の都市銀行系IT企業に就職。数年後にはその銀行が破綻するという想定外の出来事もありましたが、専門学校で身につけた技術のおかげで、転職もスムーズに進めることができました。

受験に失敗したことは、当時の私にとって大きな挫折でしたが、あの経験があったからこそ自分の道を見つけることができ、やり直すチャンスは何度もあるのだなと心から思いました。

ただ、専門学校は特定分野を深く学ぶ場。目的意識がなければ、大学よりも将来の選択肢が狭まる可能性があります。高校時代にしっかり勉強し、希望の大学へ進学するのは、やはり理想的な選択肢の一つだと感じます。大学では幅広い学びが得られ、視野や可能性が広がるからです。

そうは言っても、努力してもうまくいかないことはあります。そんな時こそ抱え込まず、信頼できる大人に相談してください。自分の意志を大切にしながら、人の意見にも耳を傾けることで、きっとよりよい選択ができるはずです。

進路に悩んでいる皆さん、自分自身の道を見つけ、納得のいく選択ができる事を、心から願っています。



☆Y・G 「人生は選択の連続」

私は現在、障害福祉サービス事業の一つである相談支援事業所で相談支援専門員をしています。

相談支援専門員の業務は、障害を抱える方やその家族からの相談を受け、福祉サービス等へ繋げる役割が主にあります。介護サービスで例えるとケアマネージャーと似た役割です。相談対応・計画作成・会議開催など業務は多忙で、週末に仕事することもしばしばあります、家族の理解もあり、毎日充実しています。

昔から相談支援専門員をしていたわけではなく、大学（社会福祉学部）卒業後は障害者支援施設の生活支援として入職しました。支援員として利用者理解を重ねながら経験を重ねる中で、サービス管理責任者、介護福祉士、相談支援専門員、精神保健福祉士とキャリアアップと資格取得をしながら今の職種に至っています。

中には生活支援員のまま支援のプロフェッショナルとして定年まで勤める人たちもいます。私は障害福祉という狭い分野の中でも自分のやりたい業務を選択するために働き始めてから介護福祉士と精神保健福祉士という資格を取得しました。大学時代には相談支援という業務があることも知らず、福祉資格にも関心が無かったため教職課程を選択し卒業したので、就職後、福祉資格取得のために働きながら通信教育で不足している単位を取得し、受験資格を得ることから始めました。一年半の時間がかかりましたが、無事取得することができました。

大学時代に福祉資格を取得しておけば新たにお金も時間もかけずに済んだのにと少し後悔をしましたが、当時選択した教職課程での学

びは自分の財産になっています。大切なのは自分が必要だと感じた時に必要な学びができるかということではないかと思います。

現在日本だけでも 18,725 種類の職業があると言われています。選択して進んだ進路の先には無限の働き方があります。働くことの意味は人それぞれだと思いますが、働く環境は与えられるものではなく自分で創っていくものではないかと思います。

これからを生きていくみなさんが自分らしく歩んでいけるよう願っています！



☆T・S

日々の学びや部活動、人との関わりの中で、たくさんの経験を積み重ねている皆さんへ、保護者の一人として、そしてひとりの社会人として、メッセージをお送りします。

私は高校3年生の娘を持つ父親で、中小企業の経営者の方々に対して、経営や税務、労務、資金繰りのアドバイスをしたり、事業をよりよくするためのお手伝いをしています。この仕事は、支援した後に経営者の方々からたくさんの感謝のことばをいただきます。人から喜んでもらえることは、私にとって一番のモチベーションになっています。そんな仕事のなかで、日々多くの経営者と向き合って気づくことは、「夢や信念を持ち、地道に努力を重ねてきた人ほど、自分の人生を豊かに切り拓いている」ということです。

一方で、私は自分自身の学生時代を振り返ると、あまり勉強に本気で向き合ってこなかったこと、そして将来について深く考えずに惰性で進路を決めてしまったことに、正直なところ後悔もあります。「もし、もっと夢や目標を持って勉学に励んでいたら…」と、今でもふと思うことがあります。恥ずかしながら今の仕事は惰性で選択したものでした。

このような過去があるからこそ、皆さんに伝えたいことは、自分の「これが好き」「こんなことをしてみたい」という気持ちに素直に向き合って欲しいということです。夢や目標を持ち、それに向かって努力を続けていくことで、それは必ず実現に近づきます。大きな夢でなくともかまいません。何かに本気で取り組んだ経験は、必ず未来の自分の力になります。将来の仕事を考えるとき、「何になればいいか」だけでなく、「どんなふうに生きたいか」「どんな価値を社

会に届けたいか」という視点を持ってみてください。仕事とは、社会とつながり、人と関わりながら、自分らしさを活かせる場所でもあります。

若い皆さんには、無限の可能性があります。自分の進むべき道、進みたい道を、一日も早く見つけられるよう様々な経験をし、自分で情報収集や探求をして視野を広げてみてください。どんな未来を選んだとしても、その一歩一歩を大切に、今の努力が幸せな将来につながります。将来振り返ったときに、努力しなかった過去に後悔しないように。また、あの時、精一杯努力したから幸せな今があると思えるように。今を全力で！



☆K・S 「部活や勉強に忙しい高校生活を送っている子どもたちへ」

二人の高校生の娘を持つ母です。

私は新卒で銀行へ入社し 15 年間働き、義父の介護をきっかけに退職し、現在はメーカーの人事部で事務職をしております。何も考えず、親が銀行で働いていたというだけの事で就職活動は銀行と証券会社しか受けなかったです。今思えば、もっと自分の将来について真剣に考えて行動していたら、今よりもっと楽しい人生だったのかも、と思うこともあります。

そこで高校生の皆さんへお伝えしたいことは、学生の時にしかできないことをたくさん経験してほしいと思います。

- ・今より視野を広げて回りを見て
- ・何事にも恐れずチャレンジし経験して
- ・たくさん失敗し怒られて泣いてもいいよ
- ・余裕ができたら海外にも目を向けて
- ・余裕ができると他人を助けられるよ

時間は限られています。高校生・大学生の時にしかできないこともあります。毎日勉強と部活に忙しいとは思うけれど時間を有効に使って、さまざまな経験をして、色々な人と会話をし自分なりに考え、自分の得手不得手を知り、将来どのような人間になりたいかを考えてみてほしいと思います。

今は大変な時期かも知れませんが若いみなさんなら乗り越えられる。そして楽しい未来しか待ってないので何事にも前を向いてがんばろう。



編集後記

この度、「保護者から子どもたちへのメッセージ」第1集を発行することができました。5月のPTA総会にて原稿執筆のお願いをさせていただいたところ、早速に御協力くださった皆様には心より感謝申し上げます。

この企画は、卒業後の進路や将来の職業に悩む高校生たちに対して、私たち保護者が何か寄り添えることはないだろうかという想いから始まりました。

私たち自身も、あの頃は未来が見えず、戸惑いや不安を抱えていたことを思い出します。その経験を今、言葉にして次の世代に届けることができたのは、まさに保護者としてのささやかな願いの形かもしれません。

このメッセージ集が、高校生たちの心にそっと寄り添い、時に立ち止まり、時に前を向くきっかけになれば、これ以上の喜びはありません。続編も楽しみにしています。(K)

★読後アンケートに御協力ください。

下の二次元コードから回答できます。

8月29日までにお願いします。

